

道路空間を有効活用した様々なイベントの開催に対し補助している取組 (北海道帯広市)

【支援措置】

中心市街地活性化ソフト事業 総務省【事業経費の1/2を特別交付税により措置】

【事業費】

1,800千円(支援措置対象経費1,800千円) ※実行委員会事業費5,050千円

夏季の毎週日曜日に、道路を封鎖し、各種イベントを実施する事業である。中心市街地の衰退に危機感を持った市民有志が、中心市街地に交流とにぎわいを取り戻すために、「帯広まちなか歩行者天国実行委員会」を結成し、平成18年度から事業を開始した。実行委員会は、様々な年齢や立場のボランティアで構成されている。

開催場所は、平原通(道道)と市内唯一の全蓋式アーケードが整備されている広小路(市道)が交差する中心市街地の象徴的なエリアである。開催時間中は、市民や事業者の理解のもと、車やバス等は迂回して運行している。

開催するイベントは、内容を広く募集し、年代を問わず楽しめる音楽やダンスなど多種多様であるが、比較的子育て世代向けのイベントが多い。他の歩行者天国と異なり、道路空間を単なる歩行利用にとどまらず様々なイベント会場として活用している点が、特徴的である。また、単発イベントではなく、「毎週日曜日には、まちなかで何か楽しいことをやっている」という状況を、6月中旬～9月中旬の夏季の約3か月にわたって創り出している。

一方、事業を実施するにあたり、財源の確保が課題となっている。地元企業や市民等の協賛金を募っているものの、その不足額を市が補助して対応している。補助を行う事業費は、開催日の警備委託料やパンフレット等の広報費などであり、この経費の一部に中心市街地活性化ソフト事業を活用している。また、運営スタッフの確保も課題となっており、イベント開催時の会場設営は運営スタッフに加え、イベント参加者が協力するなどして対応している。事業コンセプトは「みんなでつくるオビヒロホコテン」であり、コンセプトのもと、事業実施の困難を解決する工夫をその都度行っている。

来場者数は、令和元年度が14回目の開催で128,000人となるなど、近年は10万人程度の来場者を集めている。また、昭和50年をピークに年々減少を続けていた休日の歩行者通行量が、事業開始以後減少傾向に歯止めがかかっている。(休日の主要8地点における歩行者通行量の推移:昭和50年度:約76,000人 → 平成16年度:約10,000人 → 平成30年度:約15,000人)

また、令和元年度のイベント来場者アンケートによると、イベントの満足度は約97%とイベント自体への満足度が非常に高いほか、イベント後、近隣店舗等へ来店すると回答した人の割合は約42%となっており、事業実施による近隣店舗等への波及効果も出ている。

【計画書の事業名】 帯広まちなか歩行者天国事業



毎週、多種多様なイベントが開催されている。



子育て世代など多様な世代の交流の場となっている。



運営スタッフ、イベント参加者が協力して会場設営をしている